

議 事 録

件 名	第2回 大網白里市学校のあり方検討審議会		
日 時	令和5年10月26日(木) 14:00～15:15		
会 場	市役所本庁舎別棟2階会議室		
出席者	学識経験者	■■■■	城西国際大学 教授
		■■■■	前白里小学校 校長
	区及び自治会関係者	■■■■	大網白里市区長会 副会長
	教育関係者	■■■■	大網白里市校長会 会長
		■■■■	大網白里市校長会 副会長
	その他教育委員会 が必要と認める者	■■■■	大網小学校 保護者
		■■■■	増穂小学校 保護者
		■■■■	白里小学校 保護者
		■■■■	増穂北小学校 保護者
		■■■■	季美の森小学校 保護者
		■■■■	大網中学校 保護者
	事務局	■■■■	白里中学校 保護者
		■■■■	教育委員会管理課長
		■■■■	同副参事兼学校教育室長
		■■■■	同主幹
		■■■■	同副課長
■■■■		同学校教育室 主査	
欠席者	その他教育委員会 が必要と認める者	■■■■	同学校教育室 副主査
		■■■■	大網白里市区長会 会長
		■■■■	瑞穂小学校 保護者
		■■■■	大網東小学校 保護者
傍聴人	6名（〔内訳〕一般傍聴者5名、報道関係者1名）	■■■■	増穂中学校 保護者
		■■■■	
<p>1 開 会</p> <p>(事務局)</p> <p>会議に先立ち、本日は、大網白里市学校のあり方検討審議会傍聴要領に基づきまして、5名の傍聴者がおりますのでご報告いたします。</p> <p>また、(報道関係者として)株式会社日刊建設タイムズ社様もいらっしゃいますのであらかじめご了承くださいと思います。</p> <p>それでは定刻となりましたので、ただいまから、第2回大網白里市学校のあり方検討審議会を開会いたします。</p> <p>なお■■■■委員、■■■■委員、■■■■委員、■■■■委員におかれましては本日所用のため</p>			

ご欠席とのご連絡をいただいております。

それではお手元の会議次第に沿いまして進めてまいります。

まず初めに■■■■会長よりご挨拶申し上げます。

2 会長あいさつ

(会長)

皆様こんにちは。

本日はお忙しい中、お越しいただきましてありがとうございます。

第1回目に皆様にお集まりいただきました時に、お一方ずつ小学校、中学校に対する思いというものを伺いまして、その中でですね、やはり人数が少なすぎて、運動会が盛り上がりがないとか、部活が上手くできないとか、そういったお話を伺いまして、そしてですね、小学校、中学校が思い出に残るような、そういったものになるようにという、そういった発言もございまして、皆様の小学校、中学校の児童生徒さんに対する思いというのを伺った次第でございます。

それを受けまして、今回ですね、そうであるならば、一体それに対してどのようなことが可能なのか、どんな解決策があるのかと、そういったものを検討していただけないかということで、事務局の方をお願いいたしまして、色々な検討をしていただいたということになっております。

ということで、本日も皆様の忌憚のないご意見を伺いたいと思っておりますので、どうか本日もよろしくお願い申し上げます。

(事務局)

会長、ありがとうございました。

それでは議事に入る前に本日の出席委員数についてご報告いたします。

本日は12名の委員のご出席をいただいております。

委員の半数以上の出席がありますことから、大網白里市学校のあり方検討審議会条例第6条第2項の規定によりまして、本審議会が成立しておりますことをご報告いたします。

議事の進行につきましては同条例第6条第1項により、会長が議長となりますので、よろしく願いいたします。

3 議 事

(会長)

それでは議事に入らせていただきます。

なお、議題といたしましては4つございますが、それぞれ関連する内容もござい

ますので、各議題で使します資料1から資料5について、事務局から内容を説明してもらい、その後に質疑応答に入りたいと思います。いかがでしょうか。

〔委員から意見なし〕

特に異論がなければ、それでは議題1から順に、事務局より説明をお願いいたします。ではお願いいたします。

(1) 学校規模によるメリット・デメリットについて《資料1、2》

〔資料1、資料2について事務局説明〕

(2) 学校毎の児童生徒数について《資料3》

〔資料3について事務局説明〕

(3) 学校の形態について《資料4》

〔資料4について事務局説明〕

(4) 学校規模適正化で想定されるパターンについて《資料5》

〔資料5について事務局説明〕

(会長)

ありがとうございました。

それではこれより質疑に入りたいと思います。

なお、資料5に想定されるパターンとして、再編基本方針で定めた適正規模を下回る学校6校について挙げておりますが、この審議会で、議論する対象は市内の小中学校すべてとなります。資料の内容に限らず、すべての学校について、皆様の忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

ご意見ご質問のある方、ご発言の方お願いいたします。

(委員)

資料とかを見させていただいて、「もうとにかくここで話し合うべきことは、もう人口が減っていくことはもう仕方がないですよ。だから人数が減っても何とかやっけていきましょう」ということなのか、それとも「市を盛り上げて、例えば白里地区にもっと人が入ってくるように、市が頑張って、人数をふやしていきましょう」ということも考えなきゃいけないのか、そこが多分違っちゃうと全然違う方向に

いっちゃうと思うんで、最初に言ったように「もう人数が少なくなるのは、もうしようがないから、それで何とかしましょう」ということをこの場で話し合うのかどうなのかっていうのを確認したかったんですけど。

(会長)

ただいまのご発言につきまして事務局からお答えをお願いしたいと思います。

(事務局)

まず、こちらの審議会で考えておりますのが、こういった現状のデータですね。この人数で、よりよくやっていくにはどうしたら良いかということであって、人口をどうすれば増やせるかとか、そういった盛り上げ方を考慮するよりは、この人数の中で、少しでも効率よくやっていく方法はないかという風に検討するといったのが中心と考えております。

(会長)

他にございますでしょうか。

(副会長)

この後、皆さん委員の方々から、フリートークで色々と意見を伺うということになるのではないかなと思うんですが、確認なんですけども、審議会は、この6校について、最終的に答申を出すっていう考え方でよろしいですか。はっきり言って、この論議の中で、この6校以外の話が出ることは構わないけれども、そっちがメインになってしまうと、話が進まないのかなあとと思って、まず我々の守備範囲は原則としてこの6校という風に考えてよろしいのかどうなのか、もう一度確認をさせてください。

(会長)

事務局からお願いいたします。

(事務局)

最初の審議会でも諮問がありましたが、その内容が、まず再編基本方針を定めた適正規模についてというものと、もう一つが、それぞれの学校のあり方について伺うという内容でありましたので、これは当然、市内の小・中学校10校すべてを含むものと、そういう風に考えております。

(副会長)

もう一つなんですけれども、我々が意見をいうときに、(先ほどの)委員からあったように、機能的な意味でどうしようかという話、プラス、例えば、地域の意見だとか考え方を含んだ意見もこの場で論議してよろしいのかどうかということを確認

したいのですがいかがでしょうか。

(会長)

事務局からお答えをお願いしたいと思います。

(事務局)

これはどちらの論議も含むものと考えていただいて結構だと思います。

(会長)

それでは、いかがでしょうか。

ご意見ご質問のある方、よろしくお願いいたします。

(委員)

白里小学校を担当している者なんですけど、今後、もし中学校小学校を一貫校にして、どこの校舎を使うとか、どこの校舎をどうにかするっていう風な、改善とかそういうの、あともう1個は、今現状、教師が集まらない状況なのに、その特殊な人（異学校種において指導する先生（例えば、中学校に在籍しつつ、小学校においても指導を行う教職員））だとかを、教育委員会がそれを作れるかっていう、今後の課題がすごい残ってくると思うんですけど、そこは、どうなんでしょうか。

(会長)

はい。事務局、いかがでしょうか。

(事務局)

今の施設の関係については、前回、長寿命化計画というのを設定していますので、白里に関しては、資料5で示した通り、小中一貫みたいな形になるので、校舎としてはどちらかになります。ただ、もしそうなったとしたら、多分どちらかという思いだと思うんですけど、そのあたりは、老朽化と、あとは実際使い勝手とかそういうのは、今後検討していきたいと思います。

(事務局)

2点目の教職員の配置についてですが、教職員については、その学校の学級数によって、教職員の定数の配置基準というのがございまして、それに則って配置するものでございます。その定数に則った配置については、県教育委員会と連携して、確実に配置していこうという風には考えます。

ただ、先ほどの委員のご質問の、専門的などいうところについては、これはなかなか難しいところがあるとは思うんですけども、例えば、中学校であれば、一番わかりやすいのは、音楽の教員がおりますが、小学校には音楽専科というのが配置されるケースもありますけども、実はそうでないケースの方が多いと思います。例

えば、想定として一貫の形をとるとするならば、中学校の音楽を専門にしてきた教員が、小学校の音楽指導を行うとか、そういうことは、可能であるという風に考えます。

(委員)

あと、この施設なんですけど、学校って、地域の話をする、避難所になってるんですけど、白里って一番問題なのが津波なので、大きな建物って学校しかないんですけど、それもどう考えているのか教えてもらいたいんですが。

(会長)

はい。事務局、お願いいたします。

(事務局)

現状で申しますと、白里小の屋上、そこを避難先としているのが現状です。ただ、知らない方もいるので、実際そういう状況にあるということだけは把握していただきたいと思います。

(委員)

もし一貫校が中学校になったら小学校廃止になるはずなので、そこはどうかやうんでしょうか。

(会長)

はい。事務局、お願いいたします。

(事務局)

そちらを含め、関係課等と協議していきたいと考えております。

(会長)

他にご意見ご質問等ございますでしょうか。

(委員)

想定される資料5の、パターンには載ってはないんですが、10校に内容を捉えて良いということでしたので、述べさせていただきます。

まず、現在大網中学校は全クラスが、22クラスございます。1学年が8、あと2学年3学年が7クラスと、とてもマンモス校で800人です。その中で小中学校の適正規模・適正配置等に関わる手引きでは、学級数を概ね12から18学級というところで、さらに学校自体が500人規模で作られたと伺っておりますが現在800人いらっしゃるというところでかなり手狭というところ。これを分散するという考え等はございますでしょうか。

(事務局)

今こちらにはございませんが、第1回審議会の際に、今後の児童生徒数やクラスの見込みということで、大網中学校につきましても、今後まず大網小学校がどんどん減少していきまして、それに合わせて中学校もやがて減少していくという、そういう流れが一つございます。

今、大網中学校で22クラスというお話、適正規模を超えているというお話いただきましたが、同様にこの一番上の大網小学校、こちらでも22クラスございまして、この適正規模を上回るという、そういった状況がございます。

令和11年までの見込みとしましては、児童数が減っていきまして、5年後には、この22クラスが適正規模を満たす18クラスに減るという、そういう見込みであります。

それがその後に、中学校の方に移行していきますと、こちらでも自ずから適正規模を満たすのではないかと、そういった今後の減少の中で今のところ考えております。

(委員)

ということはこのまま流れに乗って減ってくというのを待つということではないでしょうか。解釈的には。

(事務局)

そのように捉えていただいて結構です。

(委員)

分かりました。ちょっと続けてよろしいですか。そうしますと、ちょっと少なくなっている小学校中学校とございますが、山武市では蓮沼中が松尾中と統合して、山武望洋中という形で、かなり遠いところがくっついてるかと思うんですが、市内でこの辺くっつくってというのは何か容易に感じちゃうんですが、その辺のスクールバスとかの運用だったりそういったところで、学区の見直しだったりスクールバスの運用だったりというところはいかがなんでしょうか。

(会長)

事務局、お願いいたします。

(事務局)

学区の見直しも、今後は、もし審議会で、そういうような話があれば、地域の意見を聞いていくことになると思います。スクールバスについては、やはり決めたからには距離とかそういう問題が出てくるので、スクールバスを出すとか、補助金、路線バスがもしあればバス通学の補助を出すとか、そういった形で考えていかなければいけないと考えております。

(委員)

私もスクールバスっていうのはありだなとは思っていて、学校を2つ運営するっていうことを考えるのであれば、バス1台の経費を持つっていうのは、多分全然そっちの方が経費としては安いんじゃないのかなと思うので。大網白里市は、たまたまこの縦長というか、そういう市ではあるので、どうしても白里地区と大網地区ではちょっと状況に差がありすぎるなっていうのがあるので、それこそ、シンプルに考えれば真ん中があれば一番いいんじゃないか、そこにバスで、どちらからも来れるって、さっきのスクールバスを出すのか、バス通学の助成金補助金を出すのかっていう方法はあるのかと思うんですけども、ちょっとそのバランスが悪いなっていう、人口の分布のバランスが悪いなっていうのがあるので、どちらもあれで真ん中みたいな話になれば良いなって思いました。

(会長)

それでは、せっかく皆様お集まりいただきましたので、またこの第1回目のように、一言ずつちょっとお話をちょっと聞かせていただきたいと思います。

(委員)

自治会が学校にどうやって関わっていくかっていうようなお話になると思うんですが、自治会の中で、学校を中心に人が集まってコミュニケーションがとれるような形ができるようなことを自治会として考えていきたい。

今現在ちょっと、中学校と一緒に情報発信するためのいろんな情報を生徒さんに作ってもらって、ウェブを使ってやるみたいなことを今始めてるんですが、こういうのを、中学生にいろんな活動の場を社会の中で活躍できるような活動の場が提供できたら良いかなと思って、今、いろいろやっています。

今日の話は、一応役所の方としては、この想定されるパターンの6つの中の話はどういう風にまとめたら良いかっていうことを聞かれているのかなって私は思ったんですが、それは、どうなのでしょう。

(会長)

事務局いかがでしょうか。どうなのでしょうかと。

(事務局)

まず、こちらの資料は、会長からご依頼を受けて作った形ではございますが、これはそれぞれの学校について、考えられる手法についてそれぞれ書いてございますが、この中で、例えば、一番優先、優先的なのはこれではないか、それが駄目でしたら次のこういった方法を考える、といったある程度の順位付けを、そういったものを踏まえつつ、この学校についてはこういう方向性が良いのではないかと、というものを審議会として、それぞれ今後まとめていただきたいと思いますと考えております。

(委員)

いろいろとですね、モデルパターンとかそういうものを提示していただいて、ありがとうございます。適正規模とか、様々な問題あると思うんですけど、やっぱり以前ほどではないにしても、学校は地域コミュニティの一端を担うものであるので、地域の皆さんの意見を色々と伺った上で一番良い形を模索していければ良いんじゃないかなという風に思います。

本校は、現在適正規模でありますけれどもこれからもさらにやはり生徒数の減少というのはもう目に見えてきているので、全体的な規模でですね、話し合いを通してよりよい形が見えてくると良いのかなという風に思っております。

(委員)

自分は小学校の方の勤務で、増穂北小学校の方に勤務しております。増穂北小学校は、10月25日に創立30周年の記念を迎えたところでございます。30年前には1300人ほど増穂小学校の方で子どもたちがいて、そこから、分離をしてということで、昔の人数に比べたら遥かに子どもたちが減っているなということが伺えますし、校長室にもグラフ等がありまして、減少の一途をたどっているのを見ますと、大変なんか悲しい思いにはなります。

ただ、最初に資料1で提示していただいたように、学校にはそれぞれの地域の特色があり、そして、地域の皆さんと歩んできた歴史とともに、今、特色ある教育活動を子どもたちと一緒に作り上げ、その歴史を築き上げているような現状でもございます。

ですので、デメリットやメリット、それぞれの良さもありながらということで、本校だったらどのようになっていくのが望ましいのかなっていうのをすごく何か心配もしている部分ではございますけれども、というのが今の心情でございます。

この6校の中に入っておりますので、30年経った今も、現状、校舎も立派ですし、隣はアリーナで、立派な設備もあつたりしますので、地域コミュニティも確立してる中で、今後どうしたら良いかってというのは本当に検討に検討を重ねていかなければならないかなという風に実感をしている部分でございます。

(委員)

自分は大網小学校区に住んでいるのですが、大網小学校はかなり児童人数が多く、この辺でもマンモス校だということになっていきますので、子ども達やっぱり一人一人に目が行き届きにくいところとかもやっぱり出てくると思うんですけども、先生方にはちょっと負担になっちゃうかもしれないんですが、一人一人個性を生かして、一人でも多く、子どもたちの笑顔が増える小学校生活にしていけたら良いかな、と思っておりますので、今後ともよろしくお願いします。

(委員)

この検討審議会でいろいろ話を聞いてるんですけど、ここで出た課題とかが今後、

形になれば良いかなと思うんですけど、それが形にならないのであれば、やってる意味がないと思うので、実現できたらいいなって思う。

(委員)

第1回も参加させていただきまして、第2回目ですが、学校の統合ということで、ちょっと私が意見させていただいたんですけど、統合を考えてるのであれば、何年後ぐらいのところで見えますか。

(会長)

事務局、よろしいでしょうか。

(事務局)

何年後っていうのははっきりは言えませんが、ただ流れ的にはこの審議会でいくつかのパターン、方向性が出て、答申をいただいて、その後、先ほどから出ているように、地域に行ってお説明をして、ご理解をいただかなきゃいけないということで、そう考えると、1年、2年ではなく、4、5年とかかかってしまうのではないかと想定はしております。

(委員)

子どもたちが健やかに充実して、何不自由なく、学校生活が送れるように、考えてPTA活動をやっておりますので、今後これが良い方向に進むように、努力したいと思います。

(委員)

季美の森小学校は、この6校の中でも一番少ないということで、多分一番最初に手を打たなければいけないところなんだろうなというところで、おそらくこの想定で出している統合っていうのが一番あり得るだろうと。そこだけ考えるとあとはもうスクールバスとか、通学の問題だけなので、次回とかに具体的なところを教えていただければなと思います。

実際の住民の説明と言っても、実際少なくなってるので、もう多分これ嫌だと言われても、どうにもなんないんじゃないのかなという話もあると思うので、そういった具体的ところをもってから行くしかないのかなという風に思います。

(委員)

ここに来る前に先生方とちょっとお話した中で、先生方からちょっと聞いた話が、全職員が全生徒の教育に関わることが理想だということをおっしゃってました。特に、学年職員がその学年全員の生徒の教育に深く関わって、生徒間の協働協力の意義を高め、高く持たせることの教育の効果を高めるんだよ、っていうことをおっしゃってました。

折角ですのでこの場で、冒頭でありましたメリット、デメリットで被るところもあるんですが、大規模校としては、学校は社会性を育む場所であるので、教員と生徒、生徒同士の社会性を多くの人と触れ合うことで体験できるメリットはあって、教員同士も、学ぶ機会がすごく多いよってことをおっしゃってまして、部活動も先ほどあった通り多く、選択肢が多いという、興味に応じた活動ができるというところがあります。

大規模校のデメリットとしてはやはり細かいところまで行き届かないことや、多くの生徒が十分に活動できる施設、体育館とかがやはり小さいので、使えないという不便さ。あとは校外学習だったり、修学旅行でもやはり多いので、施設や活動内容に制限がかかることが特に多いですよってことをおっしゃってありました。

やはりもうすでに方向性はある程度できてるとは思うんですけども、なかなか、あの規模でこの生徒数というところで、難しいところは、大変承知の上ではございますが、今後良い方向に進んでいって、子どもたちが安心して学校生活を送れるように努めていただければ、すごくありがたいと感じております。

(委員)

私、先日、中学校の合唱コンクールがありまして、そこに保護者チームで出たんですけども、合唱コンクールといっても中学校5クラスなので、コンクールっていうのもあんまり盛り上がらないなっていうのは正直思いました。何か後で聞いたら、増穂中も同じ日にやってたっていう話だったんで、例えば行事を合同で開催するとか、そういったことで、交流とか、少し刺激っていうので、運動会とかも参加しましたけど、やっぱり人数が少ないとあんまり盛り上がらないかなという風に思うので、例えば学校対抗じゃないですけど、クラス対抗とかそういうような形で、共同でできるものは共同で実施するっていう方法、学校を1個にするとかっていうことよりも共同でできることもあるんじゃないかなっていう風に思ったので、そういう方法もあるなと思いました。

部活の話なんですけど、部活は、そもそも、もう先生の負担の関係でやるのかやらないのかっていう話が出ていると思うんですけど、私の子どもの同じ学年の子でもやっぱり大網中に行ったっていう子がいたりするので、そうすると小規模校は種類がないから、ますます人が出ていくっていうような状況が生まれてしまっているっていう形にはなっていますし、(資料では)野球部に丸が付いてますけど、結局今多分3人ぐらいしか部員がいなくて、どっかの学校と合同チームっていうって、週末練習してというような状況が生まれてしまっているんで、その部活動のあり方っていうのは、今世の中でいろいろと言われてはいるとは思いますが、学校に縛られない部活、でもやっぱ一番参加しやすいのは学校にあることなんだろうなとかいって、難しいとは思いますが、その何かやり方を工夫することで、小規模校のデメリットを解消する方法もあるんじゃないのかなと思いました。

どうしても、学校の統合とかの話は少し先になってしまうので、今の生徒たちに対して何かやってあげられることはないかなっていうのは考えていきたいなと思

ました。

(副会長)

実際、学校をいろいろ動かすとなると、皆さん具体的なことをイメージしてどうなんだろうって不安になられると思うんですけど、この審議会ではまず大まかな方向性をみんなで考えようということなので、方向性が決まった後、じゃあ具体的にと次のステップに話に移るのかなっていう風に思っています。

この赤、黄色、青が示されて皆さんこれ（資料5）について、特にご意見あった方はあまり多くなかったなと思うんですけど、折角の審議会なので、遠慮をしないで、ここはこうなんじゃないかって述べた方が、この審議会の方向性もだんだん固まってくると思いますので、もし今言いそびれたことがあれば、言っていた方がいいかなという風に思っております。

私市内に住んでおまして、学区は大網東小学校です。それから第1回目に紹介ありましたけれども、私定年退職の最後は白里小学校の校長でしたので、この大網東小と白里地区には思いがありますので、これについて意見を言わせていただきたいと思えます。

まず大網東小学校ですが、大網東小学校は第1回の中で適正規模の中で、見直しが必要だという学校の一つに挙げられています、私の個人的な意見としては、今回学区の見直しや統合については見送るべきだという風に考えております。

その理由は二つございます。一つ目は、大網東小学校の学区というのは、瑞穂小学区と並んでアパートが多いという特色がございます。ということはどういうことかということ、出入りが激しい学区であります。基本的にこのデータにつきましては、住民台帳を基にしたものなので、転居しないっていう前提のもとにあがっているものなので、大網東小学校はある意味、子育て世代の出入りがあるんじゃないかっていう考えなのが一点。それからコメリを周辺としたバイパス沿いが市街化調整区域から外れましたので、ここ今家が建とうという風にしております。そういう情勢を見据えた場合、大網東小学校については確かにこれ（資料3）、これはクラス数が10で、マイナス2なんですけれども、もしかしたら、この予測よりもなだらか、または、平行線をたどる可能性があるかなと感じてるところがありますので、私の意見としては、今回の6校から大網東小学校は外しても良いのではないかなという意見を持っている次第でございます。

2点目。白里小学校、白里中学校でございます。確かに昔は4学級あった白里小学校も、ほぼ1学級の状況でございます。正直言って、小学校は何とかまだ複式は免れていけるだろうなっていう見通しありますが、中学校はやっぱり厳しいなと思えます。

中学校が厳しいと感じるのは、学級数が少ないと職員の配置が少ないので、国語算数理科社会、美術、家庭科など専門の先生の配置ができなくなってしまうところがあって、それは子どもたちに影響するかなと思っております。

従いまして、心情的には白里の学校は、現状のまま活かしたいってところはあるんですけども、現実問題として、何らかの手を打たなければいけないっていうのはあるかなと。地域の方々と話をしても、薄々とそういう話は出てきている現状でございます。となりますと、選択肢は大きく二つしかないかなと思っています。

一つ目は、青で書いていただきましたように、どちらかの校舎の方に小学校と中学校が一緒になる形にして連携をしていくと、実質小中一貫校のような形で特色を出しつつ、白里で唯一、一つの義務、一つの公立学校だという形で地域の核にしていくという考え方。もう一つは、やはり児童生徒数が少ないということで、統合するという考え方、これは具体的には、さっきも言ったように大網中学校に統合するのは難しいと思いますので、現実には増穂中学校との統合を考えなければいけないって、この二つの選択しかないかなとは思っています。これにつきましては、委員の皆様から出ているように、やはり地域の方々の思いをよく酌んでいく必要があるかなと思います。

個人的には、中学校といえども白里地区から学校がなくなるっていうのは、一つ、地域の衰退に繋がるっていう危機感を皆さん持っているのかなあ、という風に個人的には考えるところですけども、これは今後、この委員の中では、■■■■委員と■■■■委員が白里地区では来ていらっしゃると思いますので、忌憚のない意見を言っていただきまして、現状としてこのままのっていうのは難しいかもしれないけど、より白里地区の子どもたち、または白里地区にとって良い形の変化っていうかな、ができるような形で議論していただければありがたいと思っています。

(会長)

最後、何かございますでしょうか。ないようでしたら、議事は以上となります。ありがとうございました。

忌憚のないご意見本当にありがとうございます。

なおですね、次回の審議会につきましては、概ね年明けの1月以降に開催する方向で検討したいという風に思います。

開催日時を事務局とともに調整し、なるべく早く関係通知を出すようにしたいと思います。それではですね進行を議事の方にお返ししたいと思います。

4 閉 会

(事務局)

それでは長時間にわたりありがとうございました。

以上で、第2回大網白里市学校のあり方検討審議会を閉会いたします。

本日はご足労いただき、また貴重なご意見を多数いただきました。

ありがとうございました。